

# FENICE SACAY CALENDAR 2023

<p>多目的室 伝統芸能 まずはここから! ひろらくご 第3回 8月31日(木) 開演13:00</p>	<p>大スタジオ 演劇 幻灯劇場 音楽劇「鬱憤」 9月15日(金) 開演19:30 9月16日(土) ①開演13:00 / ②開演17:00</p>	<p>小ホール 伝統芸能 ワカテdeワカル フェニーチェ文楽 Vol.4 9月28日(木) ①開演11:00 ②開演15:00</p>	<p>屋上庭園 CLASSIC 音楽のあるひととき Vol.13 9月30日(土) 開演17:30</p>
<p>大ホール CHORUS 東京混声合唱団 フェニーチェ場特別公演 10月8日(日) 開演15:00</p>	<p>大ホール CLASSIC ニューニュー ピアノ・リサイタル2023 《Lifetime》 10月18日(水) 開演19:00</p>	<p>小ホール CLASSIC 川口成彦 フォルテピアノリサイタル シリーズ2023 第2回 10月28日(土) 開演15:00</p>	<p>小ホール 伝統芸能 桂米團治 独演会 11月13日(月) 開演15:00</p>
<p>大ホール CLASSIC イスラエル・ フィルハーモニー 管弦楽団 11月18日(土) 開演19:00</p>	<p>大ホール CLASSIC ベルリン・フィル 八重奏団 11月30日(木) 開演19:00</p>	<p>小ホール 伝統芸能 桂吉弥 独演会 12月13日(水) 開演15:00</p>	<p>大ホール CLASSIC フィルハーモニクス ウィーン=ベルリン with 中谷美紀 12月15日(金) 開演19:00</p>
<p>小ホール CLASSIC 川口成彦 フォルテピアノリサイタル シリーズ2023 第3回 12月16日(土) 開演15:00</p>	<p>大ホール CLASSIC 音楽のあるひととき Vol.14 12月25日(月) 開演14:00</p>		

最新の公演情報はフェニーチェ場ホームページをご覧ください。都合により、曲目・公演内容が変更になる場合がございます。

## チケット購入先

<p>W WEB購入 (詳細は下記をご覧ください)</p>	<p>S 電話・窓口購入 (詳細は下記をご覧ください)</p>	<p>チケットぴあ(Pコード) <a href="https://t.pia.jp">https://t.pia.jp</a></p>
<p>L ローソクチケット(Lコード) <a href="https://l-tike.com">https://l-tike.com</a></p>	<p>e e+(イープラス) <a href="https://eplus.jp">https://eplus.jp</a></p>	<p>CN CNプレイガイド 0570-08-9999</p>

★ 未就学児 入場不可

## チケット購入方法

※ご購入いただいたチケットは公演中止を除き、変更・キャンセルはできません。 ※紛失・破損等いかなる場合においても再発行はいたしません。 ※WEB購入・電話予約での発券・配送には所定の手数料がかかります。

<p>WEB購入 6:00~翌2:00</p>	<p>チケット購入ページ sacayメイトへの登録が必要です sacayメイト 検索</p>	<p>セブン-イレブン ファミリーマート 配送 当日会場引取 ※配送と当日会場引取はクレジット支払いのみ</p>
<p>電話予約 10:00~18:00</p>	<p>堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089 (チケット予約専用) ※一部携帯・CATV接続電話・IP電話からはご利用いただけません。</p>	<p>セブン-イレブン ファミリーマート 配送</p>

<p>窓口 直接購入 9:00~20:00 一般発売日の翌週より 残席がある場合のみ販売</p>	<p>フェニーチェ場 堺市立梅文化会館 堺市立東文化会館 アルテベル(堺市立美原文化会館)</p>	<p>TEL: 072-223-1000 FAX: 072-223-1005 堺市堺区翁橋町2-1-1 南海高野線「堺東」駅徒歩8分 休館日: 第1・第3月曜(祝日の場合は開館)および年末年始</p> <p>TEL: 072-296-0015 FAX: 072-291-7083 堺市南区桃山台2-1-2 泉北高速鉄道「梅・美木多」駅前 休館日: 月曜および年末年始</p> <p>TEL: 072-230-0134 FAX: 072-230-0138 堺市東区北野田1084-136 南海高野線「北野田」駅直結 休館日: 水曜(祝日の場合は開館)および年末年始</p> <p>TEL: 072-363-6868 FAX: 072-363-0070 堺市美原区黒山1167-1 南海バス「美原区役所前」バス停前 休館日: 第2・第4月曜(祝日の場合は開館)および年末年始</p>
--	---	---



**フェニーチェ場**  
堺市堺区翁橋町2-1-1  
南海高野線「堺東」駅から  
徒歩8分

劇場で旅をする。

# フェニーチェ場

FENICE SACAY



©一色 美奈保

## 巻頭特集

世界有数のオーケストラ、9年ぶりに来日!  
「イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団」  
日本人元楽団員 神戸光徳インタビュー

観覧エッセイ 山下澄人(作家芥川賞作家)「フェニーチェやさかい」

2023  
vol.23



## 目次

- 2 目次
- 3 ペンと劇場
- 4-5、13 世界有数のオーケストラ、9年ぶりに来日!  
「イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団」  
日本人元楽団員 神戸光徳インタビュー
- 6-10 公演情報
- 11 堺市文化振興財団の取り組み ほか
- 12 地域のイベント情報ほか
- 14-15 ふれる堺

## 表紙について

イスラエルと聞いて何を思い浮かべるでしょうか？ 四国と同じくらいの面積に936万人(2021年時点)の人口を持つこの国は、悲喜こもごもの歴史と多様な文化が層をなし、9つの世界遺産を有しています。聖地エルサレムには嘆きの壁、イエス・キリストが十字架を背負って歩いたとされる「苦難の道」、聖墳墓教会に岩のドームなど、宗教的に重要な場所が数多く存在し、ヨルダンとの国境付近にある死海は、塩分濃度が高いために浮かんで本が読める湖としてよく知られています(表紙イラストではトランペットを吹いています!)。この地で生まれたオーケストラ「イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団」もまた世界的に有名で、建国間もないイスラエルの文化芸術分野におけるシンボルの1つとして発展してきました。その国の歴史と文化に思いをはせながらオーケストラの演奏を聴けば、豊かな響きのなかに、違う何かを発見できるかもしれません。

公演情報で「主催：フェニーチェ堺」と記載されているものは、フェニーチェ堺の指定管理者である公益財団法人堺市文化振興財団が開催する公演です。

## ペンと劇場

### フェニーチェやさかい

芥川賞作家 山下澄人

#### 「渡辺貞夫グループ 2023」2023年7月2日公演

南海線に初めて乗った。途中「テングチャヤ」という車内アナウンスが聞こえてああそうかじゃりん子チエの街か。あの漫画面白かったな。アニメも見た。出たら暑い。まだ七月の二日やぞ。八月になったらどうなんねん。十二月になったら死ぬな。タクシーに乗った。

「フェリー、ちえ。ちやう。フェニーチェや、さかい。ちやう。フェニーチェ、堺」

人を寄せ付ける気のなさそうな威圧感のある建物が見えて来た。元は市民会館で地元の人のみならず近隣のものなら「有名なやつだからぜったい知ってる」のだそう。なら今時の変わり映えしないカタカナ名前よりゴージャスに新装したからこそ「市民会館」でよくないか？ 少し気張って新装開店いたしました市民会館でございます。駅から会館までワンメーターです。歩けわたし。

受付前でこの文を依頼して来てくれた担当者とい資料とともにお茶をいただく。何しろ暑い。かばんにはすでにポカリにオーエスワン。熱中症を恐れて水分をとりすぎていることにまだここでは気がついていない。

中へ入ると四階席である。二千人入るのだという。満杯だ。観客の年齢層は高い。携帯は切らずとも電波が届いていない(\*)。席についたあたりで水分をとりすぎたことに気づく。便所はいっぱい。女子便がすごい。男子便からおばちゃんが出て来た。今流行りの性別関係なしのやつ。そうじゃないようだ。

開演。わたしにははじめてのジャズライブ。どのようなものをジャズと呼ぶのかもよく知らない。ナベサダもはじめてである。ナベサダこと渡辺貞夫。有名な人だからテレビで見たことがあった。なんと九十歳。客席のあちこちで咳が聞こえるがナベサダは咳などしない。音が鳴った。わたしはマイクを通した音が苦手だ。そこにいるのに遠くにいるような気がしてしまう。ナベサダは九十歳だとは思えない。客席に背を向けてゆっくりと舞台ツラに歩い



#### おれに聞くの？

山下澄人著 平凡社  
定価1,980円(本体1,800円+税) 好評発売中

生きることについて、小説の書き方について、人間関係について、.....その悩みはあなたに必要ですか？ 視点が反転するような回答が悩みを雲霧消させる。芥川賞作家による異色人生相談。どんな人にも悩みはあり、人生のあわいはあり、そんな当たり前のことに改めて気づかされると同時に、でも見方を変えれば乗り切れるかもしれない、と思えるような本です。



たりするのが少々危なっかしいがそれだけだ。腰も膝ものびて、驚くような肺活量。技術に値打ちのあった時代の人間の凄み。

途中休憩が入った。もちろん便所へ急行した。ついでにひと通り上がり下がりして中を見てみた。物販に人だかり。CDやらTシャツやら。配信の時代にCDが飛ぶように売れていた。

後半再開。わたしは改めて不思議な気分でした。わたしの親ほどの歳のナベサダを同じ年頃、もしくは少し下の人々が拍手をし、リズムをとりながら見ている。じいばあがじいを見て揺れている。若い人が見たらびっくりするだろう。この人達は戦争、その気配も見たし、焼け野原から巻き返すのも見ていた。巻き返して来た。この国をこうしてくれた方達。この国をこんなにしてしまった人達。わたし達はどうか。

ラスト、アンコールのその最後。リストを渡されたののだがその曲は書かれてなかった。咄嗟に演奏されたものかもしれない。渡辺さんはずっとマイクから離れた。サクソフォンの生音が会場に鳴り響いた。それはまるで別の音に聞こえた。雷に打たれたようだった。ようやく渡辺さんと同じ空間にいたと身体が喜んだ。終わった。素晴らしかった。

帰りは歩きで駅まで歩いて親切的な担当者と別れて南海電車に乗ったら西の空に日が沈みかけていた。虹が見えた。帰りの新幹線の夜空にほほ満月が出ていた。それはコマ送りに揺れてぶれた。ジブリのかぐや姫の物語でそのような月を見た。そういえばじゃりん子チエもかぐや姫も作ったのは高畑勲監督。もう亡くなられた。ナベサダより少し年上。女性たちで車内は満席でみんな誰かの「ライブ」を見て来た帰りだった。誰を見て来ましたか。わたしはナベサダを見て来たんです。会場だったフェニーチェ堺は今日の記憶を建物に染み渡らせてたえて、時間をかけて凄みを増していくのでしょうか。ナベサダのように。そのとき今日いた人たちはいるのでしょうか。わたしも含めて。素晴らしかったですよ。

とわたしは話しかけていたわけじゃない。

(\*)公演時は抑止装置を起動し、携帯電話の電波を遮断しております。

山下澄人(やました・すみと)  
一九六六年兵庫県生まれ。富良野塾二期生。2012年「緑のさる」(平凡社)で第三回野間文芸新人賞受賞。二〇一七年「しんせかい」(新潮社)で第一五回芥川賞受賞。著書に「砂漠ダンス」「コルバントリ」近刊「君たちはしかし再び来い」ほか。

ペンと劇場：著名な作家がフェニーチェ堺に足を運び、実際に主催公演を観覧して書いたエッセイです。



## 巻頭特集

# 世界有数のオーケストラ、9年ぶりに来日! 「イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団」

## 日本人元楽団員 神戸光徳インタビュー

9年ぶりに来日するイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団。2026年にミュンヘン・フィル首席指揮者への就任が決まっている34歳の俊英ラハフ・シャニによる指揮や、第18回ショパン国際ピアノコンクール第4位入賞の小林愛実がソリストで登場することで、大きな話題となっています。

2010年から2011年にかけて同楽団に所属し、当時は少なかった外国人メンバーのひとりとして活躍されたティンパニ奏者の神戸光徳さんに、イスラエル・フィルの魅力がうかがえました。

(取材日 2023年7月10日)



神戸光徳(かんべ みつのり) 東京芸術大学中退後、マンハッタン音楽院再入学からのエルサレム交響楽団入団。その後イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団にてティンパニ・打楽器奏者として活動。帰国後各地で客演首席として活動しティンパニ奏者としてパシフィックフィルハーモニア東京へ入団。

——イスラエルには5年住んでいらっしゃいましたが、どんなところでしたか?

非常に魅力的な場所ですね。イスラエルは世界中に散らばっていたユダヤ人が集まって建国されました。ひとくちにユダヤ人といっても、そのなかにはヨーロッパ圏から出てきたグループやアフリカ系に中華系、帝政ロシアや崩壊後のソ連から移住してきたグループなどがあって、暮らしてきた文化的背景はバラバラ。生活様式が違うので、日本人の「あうんの呼吸」のような、口にしなくてもわかる「ゆるやかな社会的合意」が共有しにくく、あらゆる場面で『なぜ、そうなのか』『どうして、そう考えるのか』を問われます。あちらで最初に覚えたヘブライ語が「למה(ラマ)」という言葉で、なぜ?という意味なのですが、初対面で自分の名前を名乗ったときにも「なぜだ?」と聞かれたんです。ユダヤ人の名前はたいてい旧約聖書に出てくるもので、それぞれに意味(キャラクター)があるので、「ミツ」という名にも同じ様な由来があるはずだと考えたのでしょう。彼らを飲みにも誘ってもすかさず「なぜだ?」と返ってくるのには、さすがに辟易しましたが(笑)。

——ユダヤ人が議論好きと評されるのには、そういった面もあるんですね。

よくニューヨークは人種の坩堝るつぽといわれます。私もマンハッタン音楽院時代に住んでいましたが、基本的には人種が違うだけで言葉も文化もほとんど一緒です。それに対してイスラエルほど多様性に富んだ国はないと思います。子どもの頃から多様性に触れているから、違っているのが当たり前で、どちらかにすり合わせるのではなく違うものが点々・共存している、というのが彼らの社会風景。正解であったり固定観念が持ちにくい反面、変化することにためらいがありません。ダイレクトに本質をつかんで、いま一番良いものをみんなで選ぶよ、というマインドがあります。それはオーケストラのオーディションにも表れていて、一般的には音楽学校の系統であったり、学んできた奏法が重視されるものですが、音楽の理論的背景がメンバーによってバラバラなイスラエル・フィルでは「まあ、とにかく弾いてみてよ」で始まり、うわべではない「自分の音」を持っていると、「良いものは良い」と評価されます。イスラエル・フィルで振ってきた超一流の指揮者たちが口々に「このオーケストラには独自のサウンドがある」といっていたところにも、それは表れていた気がします。

——サウンドがあるとは?

表現するのが難しいのですが、たとえば私が向こうでバイオリンの教授から受けたレッスンでは、1つの音の出しかつで延々6時間も取り組むんです。「もっとこういう音で」「違う、こうだ」と。そして音がはまった瞬間だけちゃんとほめてくれる。オーケストラでは、音楽の方向性を決めるためにボーイング(弓の動き)を決めるとき、リハーサルを止めて本気の喧嘩が始まったこともあり。「なんでここでダウンにするんだ、おかしい!」「いや、絶対にこっちだ!」と。私がいた頃はよくぶつかっていましたね。そんな練習を重ねてきた人が集まっているから、指揮者が何か要求してきても自分たちがどういう方向性のサウンドを持っているのかについて、共通認識があるんです。むかしクルト・マズア\*がイスラエル・フィルで指揮棒を振ったとき、「報酬なんて雀の涙だが、このサウンドがあるから自分はここに来ているんだ」と叫んだそうですよ。

\*東ドイツ出身。ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団を長く指揮した。

——イスラエル・フィルといえば今も敬愛される2人の音楽家、レナード・バーンスタインとズービン・メータがいます。

イスラエル・フィルでは、強靱なリーダーシップを持っている指揮者でなければ上には立てないですね。私が所属していたときの音楽監督メータには、絶対的なリーダーシップがありました。本気で音楽をぶつけ合うことによってのみ発生する衝突/化学反応を、指揮者がどのように調理するのか。音楽家としての器や信念はどうか。人の反応をうかがいながら忖度して生きてきたかどうか、オーケストラには瞬時にわかってしまいます。そこが怖い面であり、楽しい面でもありました。フレーズにしても音量にしても理にかなっていれば受け入れられますが、そうでなければ相手にされない。基本的にはとてもオープンな人たちなのですが、そのあたりはハッキリしていたと思います。

——ひと筋縄ではいかない。

イスラエル・フィルにはずっと語り継がれている伝説の公演がいくつかあって、かつて大阪でバーンスタインが振ったマーラーの9番は言葉を越えた超絶体験の音楽だったと、たくさんの方から聞きました。レニー(彼の近くで仕事をした人はみんなバーンスタインを愛称で呼んだ)はじっと涙を流し、往年の奏者たちも意味もわからず涙が止まらないまま演奏を続けて、曲の最後を迎えると席を立つどころか、弓を下ろすことさえできなかった。「芸術の本質の中を生きた感覚」だったそうです。自分たちの理想の響き、これだ!というサウンドは、こうやって積み上がっていくんですね。

——イスラエル・フィルは弦の音が白眉であると称賛されますね。伝統だ、と。

たしかにユダヤ人特有の、弦の音がものすごく吸い付く瞬間があります。コーガンやハイフェッツなど、昔からユダヤ人には有名なバイオリニストが多く、イスラエル・フィルの創設者フーベルマンもそうでした。楽器の良し悪しとはあまり関係がなくユダヤ人独特の音の感覚があって、それがオーケストラになると増幅されるわけですから、他とはちょっと違ったキャラクターになります。私がいた頃はダークなサウンドといわれていて、民族色が強いというか、音の概念が違うと感じたものです。どう違うのかを説明するのは難しいのですが、たとえば暗譜のことを英語ではmemoryとかmemorizeというのに対して、私がレッスンを受けた先生はPlay by heart, bottom of my heartと表現しました。非常に人間的に音をとらえ、有機的な演奏をする。普遍的な音を出したいとみんなが思っていて、うずをまくような、うねるような音が弦楽器からするというのが特徴ですね。

続きは13ページへ

## CLASSIC 大ホール | イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団 11月18日(土) 開演19:00

ラハフ・シャニ指揮、イスラエル・フィル伝統の艶やかな弦楽器の調べ! レナード・バーンスタイン、ズービン・メータからタクトを引き継いだ若き天才指揮者と世界有数のオーケストラの交歓に彩りを添えるのは、第18回ショパン国際コンクール第4位入賞で話題となった小林愛実。9年ぶりに響き渡るイスラエル・フィルの音色をご堪能ください。

出演:ラハフ・シャニ(指揮・音楽監督)、小林愛実(ピアノ)、  
イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団(管弦楽)

<プログラム>  
ツヴィ・アヴニ: 祈り  
ショパン: ピアノ協奏曲 第1番 小短調 作品11  
ベートーヴェン: 交響曲 第7番 長調 作品92

好評発売中

S席19,000円 A席17,000円 B席15,000円 C席9,500円

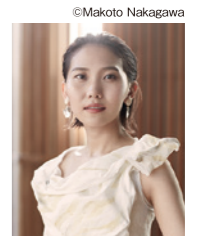
主催:フェニーチェ堺 後援:イスラエル大使館、在神戸イスラエル国名誉領事館



W S U 240-954 51660 e ★



指揮・音楽監督 ラハフ・シャニ



ピアノ 小林愛実

W S U 51660 e ★ については裏表紙をご覧ください

●最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください ●都合により、公演内容が変更になる場合がございます ●掲載情報は7月28日現在

チケットを購入する



CLASSIC

CHORUS  
大ホール

## 東京混声合唱団 フェニーチェ堺特別公演

10月8日(日) 開演15:00

日本を代表するプロ合唱団が  
定番曲や名曲の数々を歌い上げる特別公演!  
第2部は信長貴富氏の指導を受けた堺の合唱団が共演し、  
あの名作を披露します。

出演:大井剛史(指揮)、鈴木慎崇(ピアノ)、東京混声合唱団(合唱)

<プログラム>

- 東京混声合唱団 ステージ  
W.A.モーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」  
三善晃 編曲:唱歌の四季「朧月夜」「夕焼け小焼け」ほか
- 堺市合唱連盟 合同ステージ  
信長貴富「くちびるに歌を」ほか

好評発売中 3,500円 主催:フェニーチェ堺



©中村敏子

CLASSIC  
大ホール

## ニューニュー ピアノ・リサイタル2023 《Lifetime》

10月18日(水) 開演19:00

6歳でデビューし、すでにピアニストとして20年キャリアを築いている中国が誇るスーパースター ニューニュー。日本では、TVアニメ『ピアノの森』に登場する中国出身ピアニスト バン・ウェイの演奏を担当し、大きな注目を集めました。リサイタル前半では、新アルバム《ライフタイム》からロッシェニ作曲「ウィリアム・テル序曲」やシューベルト作曲「白鳥の歌 セレナード」などポピュラーな小品をお届けします。後半はベートーヴェンの三大ピアノソナタのひとつで、傑作との呼び声の高い「熱情」を演奏します。ニューニューがお気に入りのフェニーチェ堺大ホールで贈る珠玉のピアノプログラム。どうぞ、ご期待ください。



©Paul Tsang

<プログラム>

ロッシェニ/リスト編:『ウィリアム・テル』序曲、坂本龍一:エナジーフロー、リスト:ラ・カンパネラ、ショパン:夜想曲 作品9-1、ベートーヴェン:ピアノソナタ 23番 へ長調 作品57「熱情」ほか

好評発売中 一般4,000円 学生2,000円 主催:フェニーチェ堺 後援:一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

※学生席は座席エリアを限定しています。

※学生席は学生証をお持ちの方もしくは25歳以下の方に限ります。当日は学生証と年齢の確認できる本人確認資料をお持ちください。

W S U 244-047



CLASSIC  
大ホール

## ベルリン・フィル八重奏団

11月30日(木) 開演19:00

ベルリン・フィルが誇る8人のトップ奏者による至高のハーモニー。シューベルトの傑作のひとつに数えられ、八重奏というジャンルを代表する名曲である「八重奏曲」を演奏するほか、ベルリン・フィル八重奏団のために委嘱された細川俊夫作曲《テクスチュア》の日本初演にも注目が集まります。

<プログラム>

- シューベルト:6つの楽興の時 Op.94 D.780、  
ハンズ・アブラハムセンによる八重奏編曲版
- 細川俊夫:《テクスチュア》八重奏のための (日本初演)
- シューベルト:八重奏曲 へ長調 Op.166 D.803

出演:榎本大進(第1ヴァイオリン)、ロマーノ・トマシーニ(第2ヴァイオリン)、アミハイ・グロス(ヴィオラ)、クリストフ・イゲルブリンク(チェロ)、エスコ・ライネ(コントラバス)、ヴェンツェル・フックス(クラリネット)、シュテファン・ドール(ホルン)、シュテファン・シュヴァイゲルト(ファゴット)

好評発売中 S席6,000円 A席5,000円 B席3,500円 主催:フェニーチェ堺



©Simon Pauly

CLASSIC  
大ホール

## フィルハーモニクス ウィーン=ベルリン with 中谷美紀 <カーニバル(謝肉祭)>

12月15日(金) 開演19:00

ウィーン・フィルやベルリン・フィルの奏者を中心に結成された腕利きアンサンブルが、クラシックのエネルギに遊び心をのせて解き放つ、唯一無二のセンス・オブ・クラシック! 音楽の喜びに満たされた超一流の音楽家たちからとどなくあふれ出す、最上級のエンターテインメントをお楽しみください。

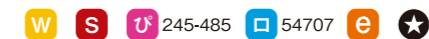
コールドプレイ作曲の「Viva La Vida(美しき生命)」や、「ジュラシック・パーク」「ピンク・パンサー」等の映画音楽のほか、クラシックの人気作「動物の謝肉祭」にフィルハーモニクス独自の解釈を加えたオリジナル組曲「カーニバル」では、女優の中谷美紀が朗読を披露。夢のコラボレーションが実現します。

出演:ノア・ベンディックス=バルグリー(第1ヴァイオリン)、セバスチャン・ギルトラー(第2ヴァイオリン)、ティロ・フェヒナー(ヴィオラ)、シュテファン・コンツ(チェロ)、エーデン・ラーツ(コントラバス)、ダニエル・オッテンザマー(クラリネット)、クリストフ・トラクスラー(ピアノ)

好評発売中

S席7,000円 A席6,000円 B席4,500円

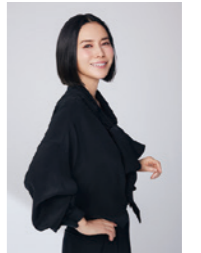
主催:フェニーチェ堺



中谷美紀(朗読)



©MaxParovsky



CLASSIC  
小ホール

## 川口成彦フォルテピアノリサイタルシリーズ2023 ～Colorful～ featuring Bach and Chopin

【第2回】10月28日(土) 開演15:00 「カラフルな変奏曲の世界」  
【第3回】12月16日(土) 開演15:00 「歌曲で辿るショパンへの旅路」

第2回「カラフルな変奏曲の世界」

“Colorful”をテーマにした2023年のリサイタルシリーズの第2回は「変奏曲」の世界にどっぷり浸って頂きます。主題として掲げられたメロディーが自在に変化していく変奏曲は、作曲家のアイデアとイマジネーションの宝庫です。今年のシリーズでフューチャーしているJ.S.バッハとショパンに加えて様々な時代の5名の作曲家も登場させ、色とりどりの音世界が散りばめられた演奏会になればと思ってプログラムを考えました。「幻想曲」とタイトルに掲げられた作品も変奏曲形式のものを選びました。そして使用する楽器は堺が誇る山本宣夫さんが修復された1861年のウィーン製のJ.B.シュトライヒャーです。時代も地域も異なる7名の作曲家たち、そして素敵なピアノと共にカラフルな時間を一緒に過ごしましょう!

——川口成彦



©Shin Matsumoto

【予定曲目】

J.S.バッハ:イタリア風アリアと変奏 イ短調 BWV989

モーツァルト:「ああ、お母さん聞いて」の主題による12の変奏曲 ハ長調 K.265

ショパン:『ドン・ジョヴァンニ』の「お手をどうぞ」の主題による変奏曲 変ロ長調 op.2 ほか

使用楽器:J.B.シュトライヒャー(1861年 フォルテピアノヤマモトコレクション所有)



J.B.シュトライヒャー



プレイエル

第3回「歌曲で辿るショパンへの旅路」

川口成彦がショパン存命時のプレイエルを演奏し、ショパンの生まれ故郷ポーランドのソプラノ歌手アルドナ・バルツニックをゲストに迎える、贅沢なオール・ショパン・プログラム!

使用楽器:プレイエル(1843年 タカギクラヴィア所有)

チケット発売日:第2回=好評発売中 第3回=8月19日(土) 4,000円 主催:フェニーチェ堺

W S U 238-316 (第2回) 238-317 (第3回) e ★

演劇  
大スタジオ

## 幻灯劇場 音楽劇「鬱憤」

9月15日(金) 開演19:30  
9月16日(土) ①開演13:00 / ②開演17:00



藤井颯太郎

幻灯劇場の話題公演がフェニーチェ堺に登場!!

作/演出:藤井颯太郎 作曲/振付:本城祐哉

出演:鳩川七海、布目慶太、橋カレン、本城祐哉、村上亮太郎、中尾多福、今井秋菜、宇留野花、藤井颯太郎

残席わずか

一般3,000円 高校生以下1,000円 自由席

主催:フェニーチェ堺

W S ★

演劇  
大スタジオ

## フェニーチェ演劇 解体新書

Vol.5『劇場すべてを“劇場”にする』

10/14(土)、10/22(日)、11/3(金・祝)、11/4(土)、11/11(土)、11/12(日)

舞台があつて客席がなければならない。演劇にそんなルールはありません。このワークショップでは、劇場の中で劇が上演されることがない場所——楽屋やホワイエ、チケットカウンター——を舞台に、演劇作品をつくっていきます。現実と虚構の境界を曖昧にしながら、妙にリアルで不思議な演劇をつくってみます。

Vol.6『現代の昔話を書いてみる』

11/19(日)、11/25(土)、11/26(日)、12/2(土)

“戯曲”ってなんだかご存知ですか? キキョクは所謂、演劇の台本です。この戯曲という文学、読む人によって読み味が変わる、不思議で面白いジャンルなんです。今回挑戦する戯曲のテーマは「現代の昔話」——就活をする桃太郎、動物園に連れて行かれた熊を助けに行く金太郎、エアコンの出現によって状況がやや複雑になった北風と太陽。そんな現代の昔話に思いを馳せながら、生まれて初めて“戯曲”を書いてみませんか?

講師:藤井颯太郎(演出家・作家・俳優)

W S ★

詳細は決まり次第ホームページにて発表 主催:フェニーチェ堺

伝統芸能  
小ホール

## ワカテdeワカル フェニーチェ文楽 Vol.4 9月28日(木) 午前の部11:00 午後の部15:00

桐竹勘十郎の発意・監修のもと、次代を担う若手が名作に挑戦。豊竹靖太夫(太夫)、鶴澤寛太郎(三味線)、吉田蓑紫郎(人形遣い)による鼎談に加え、恒例の「ワカル文楽」コーナーでは、文楽にかかせない「大道具の魅力」をたっぷりご紹介します。

<演目>『傾城恋飛脚』新口村の段

思いを寄せる女性のために罪を犯してしまった忠兵衛が手に手を取って逃れた先は故郷の村。追っ手がせまるなか、事情を察した父・孫右衛門との間にづらい別れが待っていました。



新口村  
©杉江みどり



豊竹靖太夫



鶴澤寛太郎



吉田蓑紫郎

好評発売中 3,000円 主催:フェニーチェ堺 企画・協力:(一社)日本の伝統芸能

W S U 519-404 56981 e ★

伝統芸能  
多目的室

## まずはここから! ひるらくご 第3回「一門が違くと落語も変わる?」 8月31日(木) 開演13:00

落語にあまりなじみがない方にこそ味わってほしい、上方落語の入門編シリーズの第3回。同じ落語でも、受け継がれてきたルート(師弟/一門/上方落語と江戸落語)が別だと話の流れや登場人物が違っていたり、なかにはオチまで変わることも。落語2席&トークコーナーでお楽しみください。

出演:桂阿か枝、桂雀太 トークテーマ:「一門ってなに?」

好評発売中 1,500円 主催:フェニーチェ堺

W S ★



桂阿か枝



桂雀太

伝統芸能  
小ホール

## 桂米團治 独演会 11月13日(月) 開演15:00

上方落語の実力派・桂米團治が今年も鳳凰亭落語シリーズへ。3回目を迎えるフェニーチェ堺だけの特別企画「名作落語聞き比べ」では、かつて桂米朝が得意とし、代表作とも言われてきた大ネタ「たちぎれ線香」を、一門の桂米團治と桂吉弥が月替わりで高座にかけます。落語家の違いによる、味わいの変化をお楽しみください。

チケット発売日:8月19日(土) 4,000円 聞き比べセット券(限定数・特典付き)8,000円

主催:フェニーチェ堺 制作協力:米朝事務所

W S U 520-810 53124 e ★

伝統芸能  
小ホール

## 桂吉弥 独演会 12月13日(水) 開演15:00

来年30周年を迎え、ますます脂の乗る桂吉弥が、東西から人気の落語家が集まる鳳凰亭落語シリーズに今年も出演! 米朝一門の米團治と吉弥の2人が月替わりで同じ演目を披露する恒例の特別企画「名作落語聞き比べ」では、上方落語屈指の大作「たちぎれ線香」を。

チケット発売日:8月19日(土) 4,000円 聞き比べセット券(限定数・特典付き)8,000円

主催:フェニーチェ堺 制作協力:米朝事務所

W S U 520-811 53129 e ★



多目的室

## 音楽サロンV <大森香奈のマリンバ七変化!?!>

9月18日(月・祝) 開始15:00

出演:大森香奈(マリンバ)、吉川智明(ナビゲーション/FM大阪くらこれ企画プロデューサー)  
 <プログラム> アラム・ハチャトリアン「剣の舞」、ルロイ・アンダーソン「タイプライター」、  
 シャルル・グロー/パッハ「アヴェ・マリア」ほか



W S FAX ★

申込終了 1,000円(当日精算) 自由席 主催:フェニーチェ堺 協力:FM大阪くらこれ企画

屋上庭園 ※雨天時は大スタジオ

## 音楽のあるひととき Vol.13 ~夕暮れコンサート~

9月30日(土) 開演17:30

大阪交響楽団のメンバーとお届けする1時間の気軽なミニコンサート。  
 開放的なフェニーチェ堺の屋上庭園でゆったりとした音色をお届けします。

出演:矢巻正輝(Tb)、梅田望実(Key)

<プログラム> ジョビン「イバネマの娘」、ドビュッシー「月の光」ほか

チケット発売日:8月26日(土) 1,000円 主催:フェニーチェ堺、公益社団法人 大阪交響楽団



W S ★

大スタジオ

## 音楽のあるひととき Vol.14 ~クリスマスの贈り物 happy holidays ヴィブラフォンとハーブの響き~

12月25日(月) 開演14:00

出演:小谷康夫(Vib.)、糸川可純(Hp) <プログラム> チャイコフスキー「くるみ割り人形」より 花のワルツ ほか

チケット発売日:8月26日(土) 1,000円 主催:フェニーチェ堺、公益社団法人 大阪交響楽団

W S ★

大スタジオ

## フェニーチェダンス企画2023 シニアのための「踊ってみよう」ワークショップ

10月9日(月・祝) 11:00~12:30

ダンス経験全くなしでも大歓迎! 同世代(主に60歳前後の方)の方と一緒にカラダを  
 無理なくほぐし、いきいきと動いてみませんか? 踊ることは、カラダが童心に帰ること。  
 講師によるミニパフォーマンスもあります。講師:セレノグラフィカ



W S ★

申込開始予定日:8月10日(木) 10:00 1,500円 主催:フェニーチェ堺

小ホール

## ワークショップ ゴスペルに挑戦! 2023

9月5日(火)、13日(水)、19日(火)、10月11日(水)、25日(水)、11月8日(水)、22日(水)

開始19:00

手をたたいたりステップを踏んだりしながら全身全霊で歌うゴスペル。ゴスペルシンガーのソウルフルな  
 歌声をリピートするレッスン方法で、発声方法から丁寧に指導。初心者の方でも安心してご参加いた  
 だけます。11月に開催されるフェニーチェ堺点灯式にて発表会を実施予定。講師:田邊裕子  
 (フェイスゴスペルスクール)



W S ★

残りわずか 6,000円(レッスン7回+発表会) 主催:フェニーチェ堺 ※高校生以上

W S U R E ★ については裏表紙をご覧ください

●最新の公演情報はフェニーチェ堺ホームページをご覧ください ●都合により、公演内容が変更になる場合がございます ●掲載情報は7月28日現在

チケットを購入する



小ホール **Challenging your dreams** ~フェニーチェ堺は未来の音楽家を応援しています~

①10月14日(土) ②12月23日(土) 10:00~21:00(55分/1枠)

本番に近い環境で練習すること、より質の良い審査動画を準備すること。

夢に向かって挑戦する未来の音楽家にとって、とても大切なことです。

自信を持って夢に挑めるよう、少しだけ背中を押せますように。

コンクールやオーディションに向けての練習や、審査用動画の撮影にご利用ください。

※目的外の利用はできません。 ※4歳~中学生は保護者同伴必須、3歳以下の入場は不可。

※お申し込みの前に、必ずホームページで詳細をご確認ください。



電話申込開始日(072-223-1000):①9月14日(木)10:00~ ②11月23日(木)10:00~ 先着順 3,500円(1枠) ※当日お支払い 主催:フェニーチェ堺

## 堺市文化振興財団の地域に根ざした取り組み

堺市文化振興財団では、堺市内の小中学校・こども園、子育て広場、病院・福祉施設、子ども食堂といった地域の様々な場所で、コンサートやワークショップを実施しています。  
 クラシック音楽、オペラ、絵画、造形、能楽、バレエ、コンテンポラリーダンスといった様々な芸術ジャンルを取り扱い、それぞれ専門の経験豊富なアーティストと連携して、  
 受け入れ先と調整しながら企画を行います。またこうした現場は、財団が運営する(堺市新進アーティストバンク)に登録する若手アーティストが経験を積む機会にもなっ  
 ています。登録者に向けた「実践研修プログラム」とともに、地域社会に貢献できる優れたアーティストを堺市から輩出することを目指して、日々事業に取り組んでいます。

### 実施報告

### 地域文化会館企画担当者ワークショップ実践研修

堺市文化振興財団では、堺市内にある各文化会館で働く企画担当者に向けて、地域と密接に関わりながらワークショップを  
 企画実施できる職員の育成を目的とした実践的な研修を開催しています。この研修は堺アーツカウンシルと協働で企画してお  
 り、当財団が指定管理する会館に限らず、多数の会館の方々にご参加いただいております。

令和4年度は、ワークショップとは何か、堺市が計画に掲げる「文化芸術を通じた社会包摂とは何か」を学ぶ座学や模擬ワーク  
 ショップ企画を実施しました。そして令和5年度は、前年度1年間の学びを踏まえて、地域の現場で実際にワークショップを企画  
 実施します。今年度の研修実践先は、福祉施設、病院、子ども食堂です。研修参加者はチームに分かれ、実践先と打ち合わせの  
 上、内容を考えてアーティストとともに本番を作り上げます。その過程で講師からアドバイスを受けて、よりよい本番になるよう  
 考えていきます。どんなワークショップになるのか、ご期待ください!



## サカイ sacayメイト募集

登録無料

詳しくは

sacayメイト 検索



堺市文化振興財団やフェニーチェ堺で取り扱うチケットを  
 便利にご購入いただけるサービスです。

### 4つのsacayメイト特典

- 先行予約 チケットがいち早く予約できる(一部公演を除く)
- WEBチケット購入 どこからでもチケットが買える
- メルマガ配信 最新の公演情報をメールでいち早くお届け
- その他 お得な情報が届くかも?

登録数  
50,000人

### フェニーチェ堺・堺市文化振興財団への寄附のお願い

フェニーチェ堺をはじめ堺市文化振興財団をご支援いただく寄附金を募集しております。  
 公益財団法人である当財団への寄附は税制上の優遇措置が受けられます。  
 詳しくはホームページ、又は堺市文化振興財団 総務課までお問い合わせください。  
 TEL:072-228-0114(平日9:00~17:30) FAX:072-228-0115

### 情報誌設置場所(季刊)

堺市各区役所情報コーナー、  
 文化会館、図書館、その他堺市関係施設。  
 南海線、泉北高速鉄道の主要駅。  
 その他、配布協力施設など。

# 芸術文化イベントを探すならコチラもおすすめ

フェニーチェ堺と同じく堺市文化振興財団が運営する、皆様の身近な施設で実施する催しを一部ご紹介。

W S 及びチケット購入については裏表紙をご覧ください ※都合により、イベント内容が変更になる場合があります。

フェニーチェ堺 小ホール

## 第52回堺市新人音楽コンクール (旧 堺市新人演奏会)

8月13日(日) 開演13:30



予選を通過した若手音楽家13組が演奏を披露します。最も心に響いた演奏者に贈られる「聴衆賞」の投票にもぜひご参加ください。

ゲスト: 萬代太紀(クラリネット) 第51回堺市新人演奏会 最優秀賞

発売中 1,500円 自由席  
主催:公益財団法人堺市文化振興財団  
問い合わせ:072-228-0880(平日9:00~17:30)



## 堺市立東文化会館 3階フラットホール 音楽のあるひととき in HIGASHI Vol.3 ～金管五重奏の魅力と可能性～

10月15日(日) 開演14:00

年3回のシリーズでお送りする大阪交響楽団の小編成による約1時間のコンサート。今回は「金管五重奏」の編成でお届けします。

【出演】大阪交響楽団 金管五重奏 トランペット:白水 大介、松田 貴之  
ホルン:青木 宏朗 トロンボーン:矢巻 正輝 テューバ:潮見 裕章  
【予定曲目】ドビュッシー:ベルガマスク組曲より「前奏曲」  
バッハ:小フーガト短調 ほか

発売中 1,000円 自由席 主催:堺市立東文化会館  
制作協力:公益社団法人 大阪交響楽団  
問い合わせ:072-230-0134



当時のイスラエル・フィルのメンバー。

### ——なぜ独特の音がするのでしょうか?

友人から聞いた話です。音楽と生活が一体化している文化的背景に加え、ヨーロッパ社会で永く迫害されてきたユダヤ人にとって、生きていくために手取り早く稼げる数少ない方法がストリートミュージシャンでした。技術さえあればどこでも稼げるし、バイオリンなら隠すこともできます。最悪、バイオリンを売ってお金に変え、子どもにパンを食べさせることができる。だからユダヤ人の家庭にはバイオリンがあつて、弾ける人も多かった。子どもの頃から家族のなかにいつも音楽があり、習い事ではなく生活のツールとして弦を弾いてきた人たちが音楽家という職業を選んだら、それはやっぱり音や音楽に対する概念が違うでしょ、と。私がイスラエル・フィルにいた当時の首席チェロ奏者はずいぶん年季の入ったベテランで、オーケストラではストラディバリウスを貸与されて使っていましたが、自分の持っているチェロはツギハギだらけ。「おれは楽器なんて何でもいいんだ、別に弾けるから」といっていました。

### ——そのあたりが“本質をとらえる”というところでしょうか。

ユダヤ人はきわめて現実的なんですよ。私がイスラエルに住んでいた頃はホロコーストを生き延びた人がまだまだいて、オーケストラには兵士として中東戦争\*を戦った経験のある人が何人もいました。昨日まで一緒に飯を食っていた友達が、今日は自分の隣で死んでいる。そんな世界です。私の祖父母も戦争を体験していますが、イスラエルでは昔の話ではありません。21世紀に入ってからもレバノン侵攻やガザをめぐる戦いなどで、みんなが過酷な経験をしています。男だけの話でもありません。徴兵制があるので男性は3年、女性は2年、兵役を務めます。イスラエルは小さな国で、国内どこからでも車で3~4時間も走ればそこは戦地、係争地です。あるいは自爆テロで、身体中に爆弾を巻きつけた人が飛び込んでくる日常が、ついこの間まであった。だから、彼らは物事の序列が明確です。何が好きで、本当にやりたいことをしているのか。その人がどう生きているのかがとても重要で、失敗なんて些細なこと。死が身近にあるので、余計なことに人生を費やすヒマがないんですね。アップダウンがあるのは当たり前なんだから、助け合ってどんどん前に進もう。やりたいことをやろうよ、と。

中東戦争:1948年から1973年まで、イスラエルと周辺アラブ国家との間で断続的に行われた戦争。

——だからでしょうか。イスラエル・フィルは年間の公演数がとても多い。昔は30,000人以上の定期会員がいて、どのコンサートも満席でした。さらには1~2カ月間(昔は3~4カ月間!)のツアーを繰り返すので、もう毎日飛行機に乗って毎日違う町に行き、同じプログラムをずっと演奏していく。会場が違えば音響環境もガラッと変わって演奏する

方は大変なのですが、たとえば「カーネギーホールはこういう響き方をするから…」と指示できるベテラン奏者がたくさんいるから、音の集まりどころが経験値で蓄積されているんですね。満員の客席を前にして、ときには酷評もされながら「もっとよく、もっとよく」「音楽の普遍的な美しさをダイレクトに伝えたい」と、プロ意識の高い集団が公演を重ねるのだから、どんどん音の体幹が太くなっていきますよね。オーケストラはこうやって育つのだ、と痛感しました。居場所のなかったユダヤ人が念願の国を持ち、何もないところから自分たちでオーケストラを組織して、とにかくいい演奏をしようと励んだ創設期の思いが今も息づいていて、たくましさの伝統も続いているといえるのかもしれない。

### ——そんなオーケストラを率いるのが天才との呼び声も高い若き音楽監督、ラハフ・シャニです。

彼はもともとコントラバスとピアノをやっていて、一度聴いたら何でも弾いてしまうので、これくらいのは天才はなかなか出てこないといわれていました。イスラエル・フィルではメータのもとで副指揮を務めたあと、ロッテルダム・フィルの首席指揮者に抜擢されて一気に表舞台に出て行きました。

### ——2020年からはイスラエル・フィルの音楽監督に就任しています。メータの後継者といういい立場ですが、オーケストラにとってシャニは特別な存在なのではないでしょうか?

イスラエル・フィルには奏者も指揮者も、世界中から優秀なユダヤ人が集まってきましたが、イスラエル生まれイスラエル育ちのユダヤ人としては彼が初の音楽監督です。もちろん実力がなければ就けない役職ですが、同国人を音楽監督に迎えたいという団員の思いもありますね。同じ国に生まれた才能ある若者を盛り立てたいと考えるのはおそろくどこでも一緒でしょうし、今回のプログラムにあるツヴィ・アヴニの「祈り」という曲は私は知りませんが、現代イスラエル人作曲家の曲を演奏するのは、日本のオーケストラが武満徹を弾き継いでいこうとするのと同じです。

### ——今回のプログラムの印象はいかがでしょう。弦の音を聴くにはふさわしい選曲だと思いますが。

そうですね。イスラエル・フィルの定期公演ではベートーヴェンなどの古典はほとんどやらないので、今回のベートーヴェン「交響曲 第7番 イ長調 作品92」は非常に珍しいプログラムだと思います。ツアーでの演奏となると特にレアですね。ショパンの「ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11」については、20世紀を代表するピアニストのひとりであるショパンを得意とした、アルトゥール・ルービンシュタインの名を冠したルービンシュタイン国際ピアノコンクールが開催されているのがイスラエルです。それにソリストは、第18回ショパン国際ピアノコンクールで4位入賞の小林愛実さんですね。人間味にあふれたイスラエル・フィルの演奏は、クラシックファンにはもちろん、感受性の豊かな若者にもぜひ聴いてほしいと思います。美しいという表現に収まりきらないほどのダイナミズム、エネルギーの解放を受け取って、音楽を聴く喜びだけにとどまらない出会いとなることなのでしょう。実はイスラエルは、自殺者や鬱になる人の数が世界でも圧倒的に少ないんです。家族や仲間同士のつながりがとても強いユダヤ人文化の影響もあるのでしょうか、その生命力の一端を間違いなく感じられる公演になるでしょう。私もイスラエル・フィルに参加させてもらって、本当によかったと思います。イスラエルで過ごした5年は、人生を変えてくれました。次はあなたの番かもしれませんよ。

## 堺 アルフォンス・ミュシャ館

パリのチェコ人・ムハがかなえた夢  
プラハの日本人・林由未が届ける夢

アルフォンス・ミュシャ Mucha  
モラヴァン!  
ピリム

2023 8/5(土) - 11/26(日)

チェコへの熱い想いを貫いたアルフォンス・ミュシャと人形劇の国チェコで活躍する人形作家・林由未、時代を超えた2人の芸術家の夢の世界へ。

【開館時間】9:30~17:15 (入館は16:30まで)  
【休館日】月曜日(休日の場合は開館)、休日の翌日(9/19、10/10、11/24)  
展示替え臨時休館日(10/3・4)  
【観覧料】一般510円/ 高校・大学生310円/小・中学生100円  
【主催】公益財団法人堺市文化振興財団 堺 アルフォンス・ミュシャ館  
【後援】在堺チェコ共和国名誉領事館 堺市教育委員会  
【協力】Arts and Theatre Institute チェコセンター東京 OGATAコレクション 国立民族学博物館 日本玩具博物館

〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館(JR堺市駅下車徒歩約3分)  
【TEL】072-222-5533  
【FAX】072-222-6833  
【HP】https://mucha.sakai-bunshin.com

※小学生未満、堺市にお住まいの満65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方と介助の方は無料。※20人以上の団体は割引料金適用となります。事前にお問合せください。※その他各種提携割引制度があります。 ミュシャ館HP

本展に関連するイベントは、社会状況により中止または延期する可能性があります。子ども向けワークショップや楽しいチェコの話が聴ける講演会も開催予定!くわしくはHPで!

堺市民芸術文化ホール(フェニーチェ堺)の整備へご寄附いただいた企業の皆様  
芸術文化の創造・交流・発信の拠点となるフェニーチェ堺の整備に対し、下記の皆様より堺市あてに寄付をいただきました。そのご芳志に感謝の意を表します。(申込順)

プラチナ芸術文化会合衆  
コーナン商事株式会社・堺化学工業株式会社・堺市農業協同組合  
株式会社クボタ・株式会社シマノ・株式会社 サカイ引越センター  
株式会社 コノミヤ・EH株式会社・ダイキン工業株式会社 堺製作所  
医療法人 邦徳会 邦和病院

オフィシャルサポーターA  
大阪信用金庫・株式会社 ツールオカフジ・株式会社 紀陽銀行  
株式会社 テックオカフジ・株式会社 ニチエイ・株式会社 東久・大裕興業株式会社  
株式会社 つば市製茶本舗・株式会社 リハテック・八文字会計事務所・藤原電機工業株式会社  
大阪南農業協同組合・株式会社 アスト中本・要薬品株式会社・浅香工業株式会社・山本石油販売株式会社  
向陽エンジニアリング株式会社・株式会社ジェイコムウエスト・株式会社 新川製作所・株式会社 サニコ  
南海鋼材株式会社・株式会社 三翠社・丸一鋼管株式会社・株式会社テクノアオヤマ  
まぐろパーク 大起水産株式会社・宇部興産株式会社・池藤織布株式会社・株式会社 加地テック  
新日鐵住金株式会社 和歌山製鐵所・社会医療法人 啓仁会 堺咲花病院・日新製鋼株式会社 堺製造所  
医療法人 淳康会 堺 近森病院・株式会社 羽車・株式会社東陽電気商会・泉都興業株式会社  
株式会社サンエス・株式会社和泉利器製作所・株式会社セイケイ 堺製造所・株式会社酒井鉄工所

※その他多くの企業・団体・個人の皆様からご寄附を頂戴しました。

# 越

# ふれる堺。

むかしから海外との交易で繁栄してきた堺の歴史を大切に、様々な国の人々との交流を通じ、お互いを尊重しながら、相互理解を深め、共生できる社会になればいいなあと、毎日楽しく活動しています。



堺国際交流協会理事長  
加藤博美さん

イラスト：一色 美奈保



## 堺とベトナムの長くて強い友好関係

在関西の領事館のほとんどが大阪市内に拠点を設けていますが、堺市には3つもの領事館が存在します。在堺チェコ共和国名誉領事館(北区長曾根町)、在大阪シンガポール共和国名誉総領事館(堺区老松町)、そして在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館(堺区市之町東)です。その中でも秀吉の時代から現在まで、堺と強い関係を持つベトナムについて、堺国際交流協会(1989年設立2004年NPO登録)理事長の加藤博美氏にお話を伺いました。

### ベトナムと堺の歴史

古代の日本とベトナムとの関係は、中国や朝鮮を介して文化が伝わってくる間接的な関係が主でした。その中でも中国大陸經由で伝わった舞楽(林巴楽)は、古くから宮廷や寺院で演奏され、雅楽の中でもよく知られた楽曲となっています。その後も長らく間接的な関係が続きましたが、16世紀後半の秀吉の時代になると、海禁政策がとられていた中国(明)に代わり、東南アジアとの貿易が盛んになり、安南、交趾と呼ばれたベトナム地域、ルソン(フィリピン)、シャム(タイ)と朱印船貿易が始まります。日本からは銀、銅、硫黄、刀剣、漆器などを輸出し、東南アジアから生糸、絹織物、伽羅、丁子、陶磁器、砂糖などが輸入されました。1604年から鎖国になる1639年までに海を渡った朱印船はのべ350隻、うちベトナム地域への渡航は130回を数えました。

です。九郎兵衛の父は本能寺の変の直後、家康が三河に帰るのを船で助けたことで家康から諸税を免除され、家康が天下をとると、御朱印を授けられて発展した廻船問屋でした。角屋一家は伊勢の本家を基点として、堺の三男・九郎兵衛栄信、長崎の親戚、荒木久右衛門、ホイアンに移住した次男・七郎兵衛栄吉(ホイアン)日本人町(長)によって海外貿易圏を作り、大成功を収めました。幕府の渡航禁止令が出た後、朱印船貿易は途絶えましたが、明から長崎に入る唐船を使用しホイアンとの貿易を続け、大きな富を得た記録が、伊勢神宮所蔵の『安南記』に残っています。国際貿易港ホイアンで栄えていた日本人町は、渡航禁止令により多数の日本人が帰国したことで衰退の道をたどり、七郎兵衛栄吉など現地に残った商人を中心に、その後も数十年存続しました。今は世界遺産となったホイアン旧市街を流れる小さな川には、17世紀に日本人貿易商たちが作ったとされる通称「日本橋」が現在もかかっており、日本人設計のユニークな橋としてホイアンの象徴的な建築物となり、1990年には国の歴史的・文化名跡に指定されました。



家康  
イェス



東遠橋  
(日本橋)

### 末裔も知らなかった日本人墓

安土桃山時代から続く堺の商人の家系で、堺区で青果卸売市場を経営する具足武氏は、ある日テレビを見て、ベトナム東部の日本人町があったホイアンに「具足」と刻印された墓があると知り、とても驚きました。その後もその墓のことが忘れられず、2000年5月、ついにホイアンを訪問し、博物館を兼ねていた明郷寺という寺院に「具足君墓」と刻まれた墓石が展示されているのを見つけました。墓石には400年近く前の寛永か元禄を示す「巳巳年」と書かれており、代々の住民が大切に手入れをしていました。住民たちによると、昔塩害で農業用水に困っていた現地で、日本人らが井戸掘削を行い救われたことから、その後も恩を忘れず、400年も墓を守ってきたそうです。このことがきっかけのひとつとなり、当時大阪市内にあったベトナム総領事館は2009年9月に堺市に移転しました。



### 現代も育まれる絆

堺とベトナムの友好関係は現代も続いています。ベトナムの港町ホイアンで2003年から毎年開催され、浴衣の着付けや折り紙、舞台芸術、書道など様々な日本ブースが立ち並び「ホイアン日本祭り」には、堺国際交流協会が中心となって参加して来ました。またアセアン諸国との交流は、2009年に堺市制施行120周年を記念して開催された「堺・アセアンウィーク」(当初はベトナム、インドネシア、タイ、フィリピン、カンボジアが参加。現在はラオス、マレーシア、ミャンマー、ブルネイ、シンガポールが加わり全10か国として受け継がれています。同ウィークの事業を通して、ベトナムのダンナン外国語大学で日本語を学ぶ学生と堺市の児童や生徒との文化理解事業、「ダナン日越文化交流フェスティバル」への参加など交流が活発に行われ、2019年2月には堺市とダンナンの間で友好都市提携が結ばれています。さらに2023年からは、「堺アセアンウィーク」は「堺・アセアン交流促進委員会」を中心に通年で交流事業が行われるようになり、ベトナムをはじめアセアン諸国との交流はますます盛んになっています。

#### <堺・アセアン交流促進委員会>

構成：大阪公立大学、関西エアポート(株)、(公社)堺観光コンベンション協会、堺経営者協会、NPO 堺国際交流協会、堺国際ビジネスメンバーズ、堺商工会議所、南海電気鉄道(株)、羽衣国際大学、堺市、堺市教育委員会

### 音楽の交流



Bui Cong Duy

外交関係樹立40周年の2013年には、「音楽は海を越えて」と題するコンサートを行い、ベトナムを代表するヴァイオリニストのブイ・コンズイと、カーネギーホールでの演奏など輝かしいキャリアの途中で難病により指の機能を失い、懸命なりハビリの末に左手2本、右手5本の7本指で再起を果たした、奇跡のピアニストと堺出身の西川悟平による共演が、サンスクエア堺で行われました。また50周年となる今年4月には、ベトナム国立交響楽団音楽監督で首席指揮者の本名徹次の指揮のもと、40周年のコンサートで素晴らしい演奏を披露したブイ・コンズイを再び招聘し、本名が長年常任指揮者を務めた大阪交響楽団(拠点：堺市堺区)と、ベトナム国立交響楽団から3名のヴァイオリニストとチェリスト1名を交え、「時を超え友好の和を未来へ」と題した華やかなコンサートをフエニチエ堺で行いました。音楽を通じての両国の交流は、堺においても積極的に進められています。

#### <参考文献・引用>

- ・梅田邦夫 『ベトナムを知れば見えてくる日本の危機』令和3年(小学館)
- ・監修白石昌也 『日本とベトナム～きざまれた交流の軌跡をたどる～』平成30年(独立行政法人国立公文書館)
- ・荒尾美代 『内外の伝統的な砂糖製造法(13)～江戸時代の朱印船貿易、そして現代のベトナム～』平成24年(独立行政法人農畜産業振興機構)